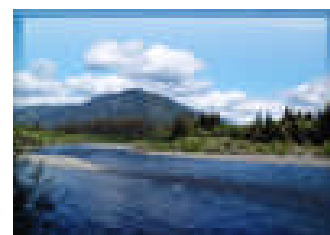


伝統の力

先週末、所用があつて電車で長い移動をした。山の間を通る電車の窓からは、つい1か月前まではまだ深い雪に覆われていた樹々が、若芽を吹き、山全体を霞がかった緑色に染めている。所々にソメイヨシノがピンク色の花をまとって、浮き立つような明るさを添えている。

新しい年度が始まって1か月が過ぎた。桜坂の桜も、こぼれるような花をつけ、今はまだもう散り初めで、通学路にピンク色の帯を広げている。朝夕、みんなはどのような思いでこの桜を見ているだろう。1年生は厳しい受験を突破して、高校生活への期待と浮き立つような喜びと共に見上げているだろうか。2年生は中核の学年として、学習と部活との両立を目指す決意をもってながめているだろう。3年生は、花を見上げながら、本高の主体者として学校生活のすべてにおいて後輩の道標たらんとの覚悟を深めているに違いない。

本高は今年創立110周年を迎える。110年前に源を發した一滴の水が、今や滔々と流れる本荘高校という人材の大河となった。しずくは結集し、水かさを増し、下流を目指して流れ下る。合流した水滴は流れのエネルギーを受け継ぎ、流れ下る方向性を共有し、大きなエネルギーの塊となる。そして、次々に流入する新たなひとしずくに、自らのエネルギーを伝えていく。



本高には傑出した学校の力、伝統の力がある。それは、流れに参入する新たなる水の群れに、確かな方向性と推進力を伝える力である。伝統とは、それを伝える者と受け継ぐ者とが、彼我の隔てなく目的を共有しあうところに流れ伝わる精神である。

4月26日の大運動会は見事にこの伝統の力を見せてくれた。110周年の運動会を成功させようというみんなの思いが1つになって、運動会自体が1つの大きなパフォーマンスとなった。協調性と団結力、企画力と運営力、集中力と行動力。勇壮な戦いと華麗なる舞い。短時間の間にあれほどの完成度まで作り上げた各クラスのパフォーマンスは圧巻であった。準備に当たってくれた生徒会、体育委員、陸上部の諸君の努力も報われただろう。

これが、本高の伝統の力の表れである。大運動会を通して、本高生一人一人が連綿と続く本高の精神の流れを受け止めてくれたはずである。新しい水の群れが参入し、本高の川の流れはますます水かさを増し、遠くまで流れていくだろう。

桜坂の桜は、坂に合流し、登下校する一人一人を、護岸に植えられた樹々がその流れを見守るように見守ってくれている。(右文の名称は本校校標である右文尚武からつけたものです。)